

国際結婚した中国人女性農業者のエンパワメントプロセス

王 雪瑩 (指導：上村 協子)

The empowerment process of Chinese women farmers who has international marriage
By Xueying Wang

1. 研究背景

日本では、高度経済成長期以降から国際結婚が大幅に増加し、結婚総数に占める国際結婚の比率が全体的に上がった。国際結婚の中でも特に日本人夫・外国人妻という組み合わせの結婚の増加が顕著であり、その割合は、国際結婚総数の70%に達している。日本人夫・外国人妻という組み合わせのなかで、現在日本人夫・中国人妻という組み合わせが最も多くなっている。この日本人男性と中国人女性の国際結婚には、恋愛結婚と紹介によるお見合い結婚が含まれると考えられる。1980年代から日本農村男性は、結婚難、いわゆる「嫁不足」の問題に直面していたので、政府斡旋によるアジアの女性とのお見合い国際結婚も出てきた。他方、日本と中国との間の交流が盛んになり、日本から中国に向かう観光客、駐在員、また中国から日本への観光、留学も増えている。このような状況において、交流する人々が恋愛をして結婚に至ることも当然ありうる。

日本における国際結婚「夫日本人・妻中国人」の件数は2015年の5730件から2016年の5526件に減少しているものの多くの国際結婚が行われており、この5526件の中国人妻のエンパワメントへの注目が必要と考えられる。(平成28年度厚生労働省人口動態統計特殊報告「婚姻に関する統計」の概況、婚姻の推移部分の図2、夫妻の国籍別にみた婚姻部分の表14による)

エンパワメントについては、①1995年の第4回国連世界女性会議で採択された北京行動綱領が、「女性のエンパワメントのためのアジェンダ」とされたこと。②2000年9月の149ヶ国の国家

元首の支持を得て国連総会においてミレニアム開発目標(Mdgs:Millennium Development Goals)が採択され、その中にジェンダーの平等や女性のエンパワメントの達成が含まれたことが、女性のエンパワメントという言葉に対する関心をグローバルに高めた(上村協子・佐藤広美・藤掛洋子(2008)『家政学専攻 ライフマネジメントコース』高尾印刷 pp.23-27)

日本と中国に経済格差があった1990年半ばまでに国際結婚し日本の農村で生活した中国人女性たちはその準拠する集団が不安定であることが要因で、そのエンパワメントが困難であったことを賽漢卓娜の「国際移動時代の国際結婚—日本の農村に嫁いだ中国人女性—」が明らかにしている。

しかし、その後の中国経済の急速な経済成長を背景にして状況が変化した。中国女性が国際結婚し来日するケースは減少したが、日本の農村部において食に関して意識が高く、子育て世代の母親の雇用をする中国人女性農業者が出現した。特に、中国の農村出身ではなく、大都市出身で日本の農村に定住し女性農業者になった中国人女性が出現したことが注目される。

2. 研究の目的

中国人女性農業者はどのようにエンパワメントしたのか。2018年現在日本に定住している三人の中国人妻(M県のAさん54歳、T県のBさん38歳とN県のCさん35歳)を事例としてヒアリング調査を行った。

ヒアリング調査に基づき、三人がどのようにエンパワメントをして女性農業者としての<<自分価

値》を実現しようとしているのか、エンパワメントアプローチのプロセスを図示することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

先行調査として、日本における「国際結婚」の件数動向を整理し、賽漢卓娜『国際移動時代の国際結婚—日本の農村に嫁いだ中国人女性—』(2011年 勁草書房)に基づいて、1990年代のアジア人「嫁」が独自文化を否定され、過度に「日本人化」を要求された時期の日中国際結婚を明らかにした。

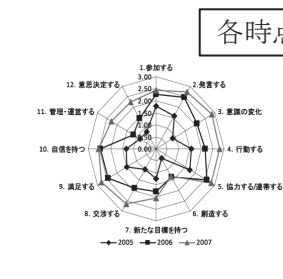
ヒアリング調査に基づき、①国際結婚をした中国人女性農業者三人の略歴を明らかにする②三人がどのように身体的、心理的、経済的、社会的、政治的、地域的の6指標においてエンパワメントし、女性農業者としての《自分価値》(アイデンティティ、地域性、農業)を実現しようとしているのかをエンパワメントアプローチのプロセスを図示する

エンパワメントプロセスの図示により、

①レーダーチャートとエンパワメント設計図を考案する②三人のエンパワメントプロセスをレーダーチャートとエンパワメント設計図として示す。

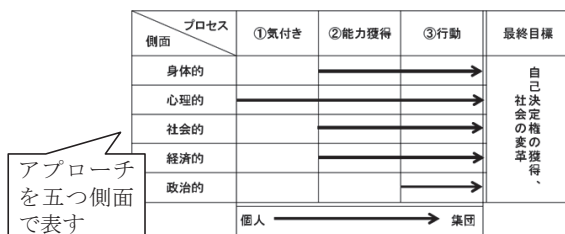
4. 先行研究

エンパワメントアプローチのプロセスを図示するにあたって、先行研究として①藤掛洋子のエンパワメント評価(2008年)②太田まさこの身体的、心理的、経済的、社会的、政治的という5つ側面の分析方法のプロセス(2011年)③御船美智子の生活設計指標(変化プロセス)(2015年)を取り上げた。



ホンジュラス農村女性の小規模起業支援プロジェクトエンパワメント指標モニタリング結果 (2004 - 2007年 6月時点)。

図1. 藤掛洋子のエンパワメント評価 (2008年)



出典：太田まさこ「問題解決型エンパワメント・アプローチの効果と課題—インド、アンドラ、アラデシユ州、マヒラー・サマーキア—の事例をもとに」pp. 4 図1により。

図2. 太田まさこの身体的、心理的、経済的、社会的、政治的という5つ側面の分析方法のアプローチ (2011年)

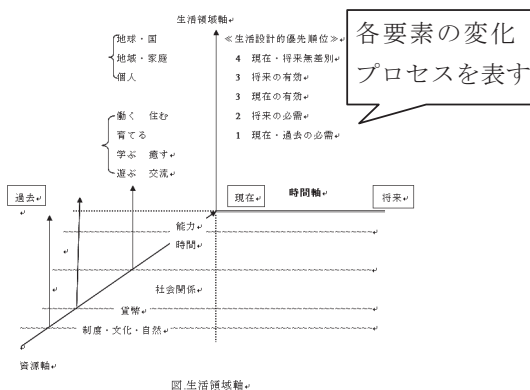


図3. 御船美智子の生活設計指標 (変化プロセス) (2015年)

5. 調査概要

【A氏への調査】

2017年3月8日(水)によみうり大手町ホール(東京・大手町)で行われたWAP100の表彰式・全国セミナー会場にて第一回目のヒアリング調査を実施した。その後、2018年7月6日(金)にA氏が住んでいるM県M市の有限会社Dにて第二回ヒアリング調査を行った。第二回調査参加者は上村協子、朴卿希、王セツエイの3名である。

【B氏への調査】

2018年2月28日(水)に中央合同庁舎4号館12階1218号会議室で農業女子プロジェクトのイベントに参加したときヒアリング調査を行った。調査参加者は上村協子、王セツエイ2名である。以来、B氏とは緊密な関係を作っており、メールや電話によるヒアリング調査は数回にわたって行った。

【C氏への調査】

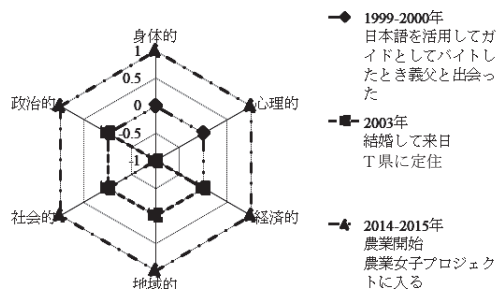
2018年3月13日にC氏が住んでいるN県N市のC氏自宅でヒアリング調査を行った。調査参加者は上村協子、相場夏子、王セツエイ3名である。以来、メールの追加調査を数回行った。

3人の出身地は、A氏は中国の首都北京、B氏は中国東北部の大都市大連、C氏は中国東北部の大都市吉林である。3人のうちのB氏は中国南方の大都市武漢市から北方の大連市に移動して、その後に来日した。彼女たちは全員、来日までに農業に従事した経験がなかった。

	A	B	C
来日	1987年	2003年	2003年
結婚	1998年	2003年	2013年
農業開始	2004年	2014年	2016年

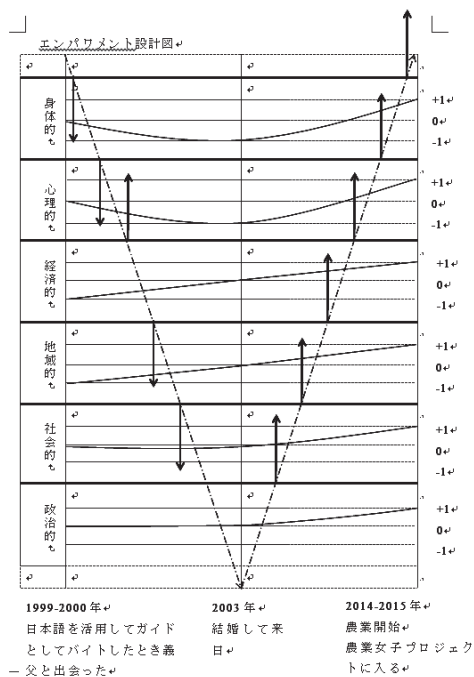
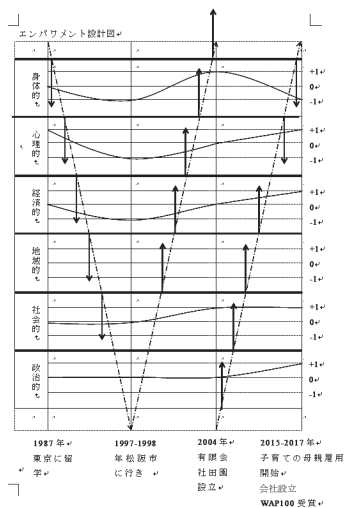
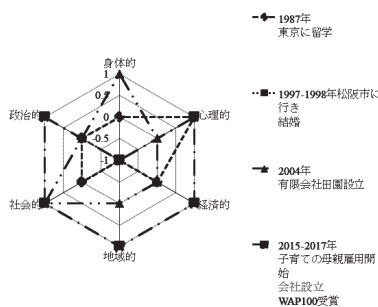
Aは東京からM市に行った際、6指標の面が下がる状態である。しかし、結婚し、農業を開始してから、経済、地域、社会、政治の4指標は上がる一方、身体と心理は下がる形になった。

【B氏】3時点



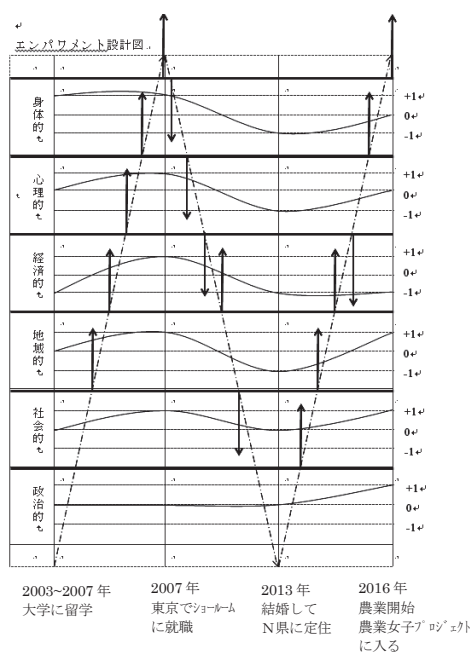
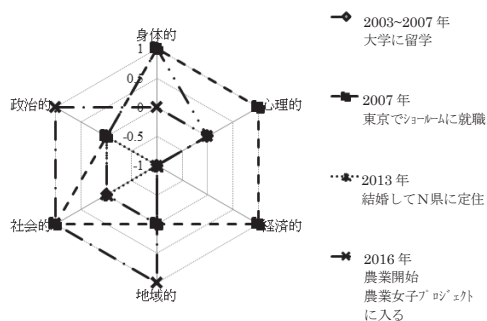
6. 調査結果

【A氏】4時点



Bは来日するまで、経済しか上がらない。結婚して富山県に定住し、農業を開始してから、6指標は全部上がって、きれいな六角形になった。

【C氏への調査】 4時点



Cは東京でショールームに就職する期間では6指標が全員上がる。結婚してから、身体、心理、経済の3指標が客観的下がった。しかし、農業を開始してから身体と心理がまた上がる状態になった。

まとめ

本研究の独自性は、第一点は、6指標の各時点での能力の変化をレーダーチャートのみならず、客観的および主観的の複合型でエンパワメント設計図として示したことである。第二点は、先行研究のように他者としてとらえるのではなく、当事者意識をもってエンパワメントプロセスを明らかにするためのアプローチを行ったことである。第

三点は、中国人妻が農業者として活躍する可能性に注目した点である。

エンパワメント設計図は試論の段階であり、今後改善を必要とするであろうが、現時点ではオリジナリティが高いと思われる。

7. 今後の課題

日本農村部には、中国人妻だけではなく、韓国、フィリピン、タイ、ベトナムなどいろんな国籍の外国人妻が暮らしている。中国人妻だけではなく、ほかの国の外国人妻も日本の政策（例えば：農業女子プロジェクト）を利用してエンパワメントをする必要があると考えられる。さらに、日本は少子高齢化社会に入り、地域過疎化が深刻化しているが外国人妻を通して改善できる点もある。研究としては、外国人妻が農業者になることを通して《自分価値》（アイデンティティ、地域性、農業）を実現することで地域の活性化につなげるようなエンパワメントプロセス研究とすることが今後の課題である。例えば、外国人妻向けの母語で農業ノウハウの講座を通して外国人妻から外国人女性農業者になること。日本農村部に暮らしている外国人妻の人数が多くもしその80%が農業者になれば、地域過疎化が改善できるだろう。

現在日本では、農村における国際結婚の支援などは積極的になされていても、韓国のような、国際結婚家庭に向けたサポートはまだ手薄い。国際結婚を促進するばかりでなく、結婚後のサポートなど外国人配偶者の様々なケアに重点をおく必要がある。そのためには制度や法律を整えること以外にも周囲の意識や理解、配慮が必要である。特に農村部では地域性が強く、外国人妻は地域に溶け込むことが重要と考えられる。

エンパワメント設計図の改善について①大区分の項目を具体的な小区分とし、-1+1の評価指標②ヒアリングによる他者評価と自己評価の双方を重視し、他者と自己の違いに注目して分析することを考えられる。今回提案したエンパワメントプロセスでは少人数の事例でミクロな視点から研究している。今後はケースを増やしマクロな視点を通して農村で暮らす外国籍の女性農業者個人のエンパワメントに貢献するようにエンパワメント設計図を改善することが課題である。